

STOP 糖尿病

神経障害とは

神経障害は、糖尿病の三大合併症のひとつです。症状は、手足のしびれや痛み、感覚の鈍麻、下痢や便秘を繰り返す、立ちくらみ、味覚が鈍くなる、発汗異常、排尿障害、勃起障害など、さまざまな形で全身にあらわれます。

症状がしびれや痛み程度だと思って安易な判断をせず、十分に知識をもっていることが必要です。

多発性神経障害

もっとも多いのは多発性神経障害です。これは感覚神経や運動神経の障害によって起こるものです。手足の末端に痛みやしびれ、感覚の鈍麻から始まります。

自律神経障害

自律神経は内臓の働き、発汗による体温の調節、血圧の維持など、人間が生きていくために必要なさまざまな機能を調節している神経です。これらが障害されると、下痢や便秘、不整脈、発汗異常、無緊張膀胱、起立性低血圧、勃起障害などあらゆる範囲に症状があらわれます。

単一性神経障害

神経を養っている細い血管が、血栓で詰まって神経に血液が通わなくなり、その部分にだけあらわれる障害です。顔面神経麻痺や一方の目が動かなくなるなどがその症状です。

神経障害が悪化すると

進行すると無自覚性低血糖や無痛性心筋虚血、壊疽、突然死のような深刻な状態に陥る危険性があります。

神経障害と診断されたら

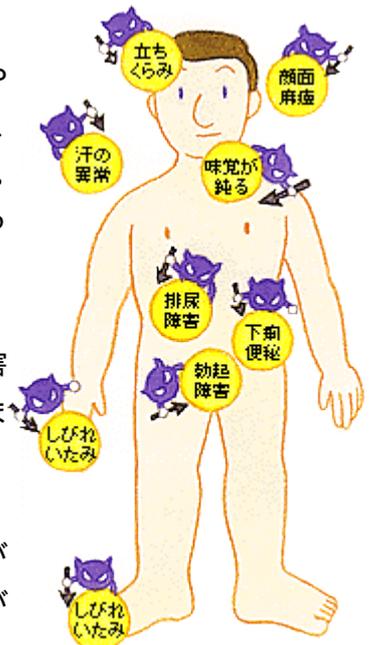
低血糖・高血糖になりやすい。血糖コントロールを十分に。

立ちくらみを防止するため、一気に起き上がらず、ひと息ついてから立ち上がる。長風呂は避ける。

足は壊疽を起こしやすいので、かかとや火傷がないか毎日チェックし、手入れを習慣づける。

味覚障害を起こしていると、濃い味付けを求めがち。味付けの濃い料理は合併症や糖尿病以外の生活習慣病を悪化させるので要注意。

たばこは血流障害を悪化させる一因。心筋梗塞、脳梗塞にもつながるので禁煙を。



次回の糖尿病チーム研修会は、5月9日(月)当院本館3階大会議室にて、17時15分から行います。多数ご参加ください。

文責 日ヶ久保 野月